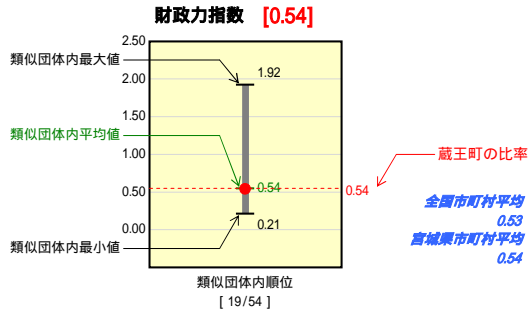


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

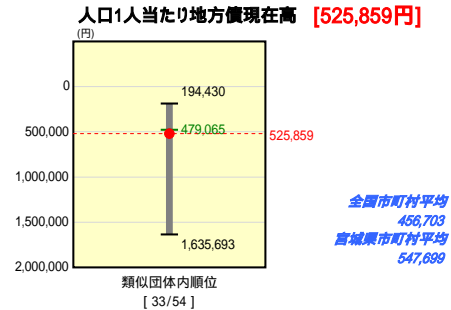
宮城県 蔵王町

人口	13,555	人(H19.3.31現在)
面積	152.85	km ²
歳入総額	5,081,590	千円
歳出総額	4,923,828	千円
実質収支	134,895	千円

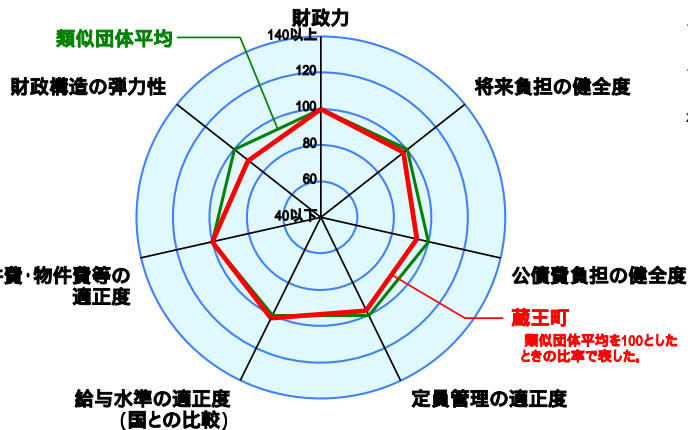
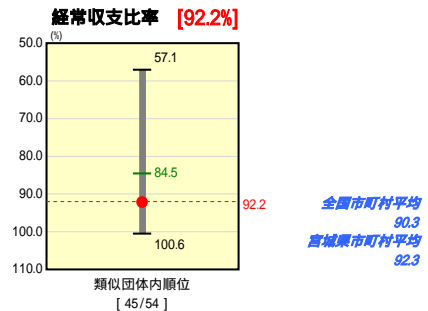
財政力



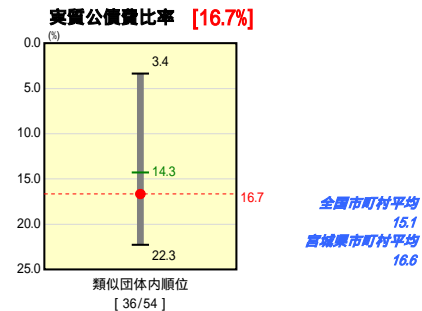
将来負担の健全度



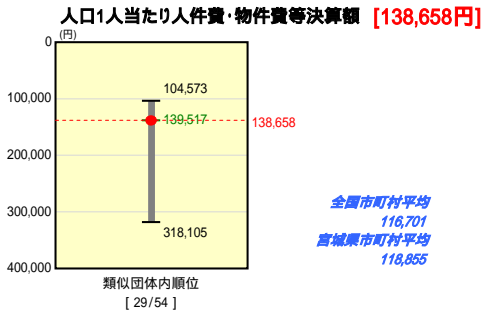
財政構造の弾力性



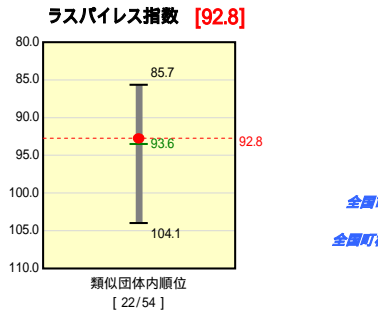
公債費負担の健全度



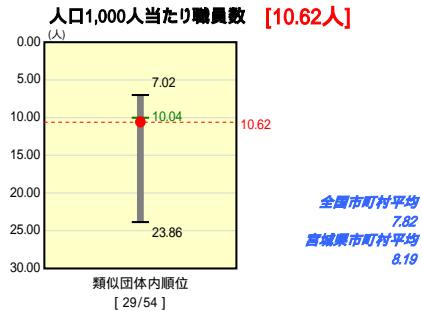
人件費・物件費等の適正度



給与水準の適正度 (国との比較)



定員管理の適正度



分析

財政力指数
18年度では固定資産税の評価替えにあたり、土地・家屋に係る税収が大きく減額した。また、景気低迷による法人町民税の減額の影響もある。町税決算額は年々減少しているため、滞納者の実態把握に努め徹底した徴収努力を行い滞納額の圧縮に努める。

経常収支比率
普通交付税及び所得課税の増額の影響により、歳入に占める経常的一般財源等が81万円伸び、前年度から0.7ポイント改善した。今後も、職員定員管理計画や行政改革推進計画に基づき、人件費の削減、各種団体等への補助費等の適正化をはじめとした事務事業の見直しを行い、類似団体平均値を目標に財政の弾力化を図る。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体平均よりやや下回っている要因は、主に物件費の削減によるものであり、指定管理者制度に移行したものと各種委託料の見直し効果、さらには需用費の削減が影響している。今後も、退職者不補充等で人件費を削減し、また、維持補修費についても年度間にバラつきが出ないよう事業適正化を図り計画的な事業執行に努めている。

人口1人当たり地方債現在高
公債費は平成19年度決算でピークを迎えるが、普通建設事業の年次計画及び地方債発行の抑制(上限3億円)を実施し、また、今後予定している繰上償還などにより平成23年度までに公債費10%削減を図り、地方債現在高を引き下げるよう努める。

実質公債費比率
平成14年度から16年度にかけての「ふるさと創生特別事業」の元金償還や公共下水道事業特別会計への多額の財源補てん繰出といった比率上昇要因は変わらないものの、新規借入の抑制、当比率に計上する一部事務組合への負担金(公営企業の元利償還金)の算定ルール変更等により昨年度から0.5ポイント低下した。今後も実質公債費比率の抑制に努める。

ラスパイレズ指数(給与水準の適正度)
ラスパイレズ指数は、全国平均・類似団体平均を下回っており、今後も適正化に努める。また、給与については、給与改定による給与抑制並びに管理職手当の定額化に加え50%カットを行い、その上行政改革による特殊勤務手当の廃止及び各種手当の抑制を図った成果が表れたと思われる。

人口1,000人当たり職員数
昨年より0.36人減らしているものの、類似団体平均も昨年より0.18人下がっている。今後点在する幼児・児童施設等をいつ統合するかが、集中改革プラン通りの定員管理の重要な課題となっている。